

# 船井先生と「直感力」

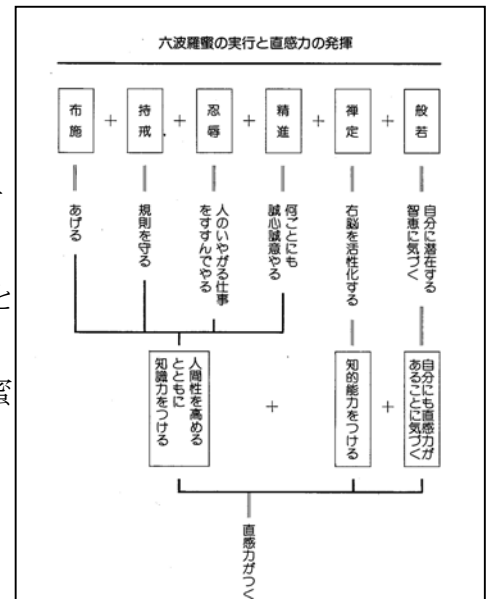
## 1. 船井先生と六波羅蜜

右掲は、船井先生が平成元年に出された「図解即時業績向上法」(「つき」を呼ぶ船井流原則経営のすすめ)の204頁にある表です。この書で船井流ベーシック経営の八つの手法が紹介されており、その最後である8番目に「問題解決法」として「直感力」に触れられているのです。

直感力をつけるための6つの極意として仏語の「六波羅蜜」と対応されて示されています。ちょっと難しい話ですが、仏教用語の「波羅蜜」(はらみつ)は、玄奘以降の新訳では「波羅蜜多」(はらみた)と言い、仏教における菩薩の基本的な実践徳目とされています。『般若経』では般若波羅蜜(般若波羅蜜多)ほか全6種(六波羅蜜)としています。

この六波羅蜜は、さらに、調べると

- ・智慧:物事をありのままに観察する「観」によって、思考に依らない本源的な智慧を発現させる事
  - ・禅定:特定の対象に心を集中して、散乱する心を安定させること
  - ・精進:努力すること
  - ・忍辱:耐え忍ぶこと。あるいは怒りを捨てること(慈悲)
  - ・持戒:戒律を守ること
  - ・布施:財施(喜捨を行なう)・無畏施・法施(仏法について教える)などの布施であるを指しています。釈迦の教えとは要約すれば「自利・利他・解脱」の三つに尽きるため
    - ・布施・持戒 -「利他」:人々に功德・利益(りやく)を施して救済すること
    - ・忍辱・精進 -「自利」:自力の修行によってその功德・利益を自分一人で受け取ること
    - ・禅定・智慧 -「解脱」:悩みや迷いなど煩惱(ぼんのう)の束縛から解き放たれて、自由の境地に到達すること
- としています。「智慧」は「般若」とも言い「般若経」として一般に知られています。



## 2. 船井先生の「直感力」

上掲の船井先生が示された「六波羅蜜の実行と直感力の発揮」を見ると「解脱」とされる「般若」(=智慧)と「禅定」にウエートが高く、「自利」「利他」の4つの「波羅蜜」(布施・持戒・忍辱・精進)を「人間性を高めるとともに知識力をつける」とまとめておられます。

そこで、「解脱」の2つの「波羅蜜」については、

「般若」= 自分に潜在する智慧に気づく = 「自分にも直感力があることに気づく」

「禅定」= 「右脳を活性化させる」 = 「知的能力をつける」

とされて、

「直感力」= 「自分にも直感力があることに気づく」 + 「知的能力をつける」 + 「人間性を高めるとともに知識力をつける」

と定義されています。

船井先生と言え「α波」という時代がありましたが、ここでいう「般若」x「禅定」の状態を重要視されたという原点のような図式であります。宗教の教えにも通じることは「普遍性」への入口でもあり

ますので興味深い物です。

### 3. 実際の「直感力」

ここからは、私見になりますが、私は「直感力」を重視しています。お客様の会議でも「パツ」と浮かぶ事を重要視しています。確かに、船井先生のご指摘の通りで、「自利」「利他」の4つの「波羅蜜」(布施・持戒・忍辱・精進)で「人間性を高めるとともに知識力をつける」とされているように、日常から得る「知識」や「経験」が豊富でないと「パツ」と閃かないのも事実です。

もう一度、「六波羅蜜」に戻ると

- ・智慧:物事をありのままに観察する「観」によって、思考に依らない本源的な智慧を発現させる事
- ・禅定:特定の対象に心を集中して、散乱する心を安定させること

という事であり、それは「解脱」=「智慧」x「禅定」⇒「直感力」という式になるのです。即ち、「解脱」とは『悩みや迷いなど煩惱(ぼんのう)の束縛から解き放たれて、自由の境地に到達すること』であり、その状態からinspiration(ヒラメキ)として浮かんだものをinspire(鼓舞する)する事、即ち、実践で証明することになるのです。

所詮、「ヒラメキ」は「やってみないと分らないこと」なのですが、これを信じて実践するか、これを信じずに迷うかでは大きな開きになります。迷っていても「前に」進まないのです。実践して、例え「壁」にぶつかったとしても「信念」が強ければ、何度となくチャレンジしたり、文殊の智慧を借りて突破するなりの方策を打ち出して一歩ずつ「前に」進むのです。すなわち、

「直感力」⇒「実践」⇒「壁」⇒「信念」⇒「突破」⇒「到達」

という図式になるのです。

「磨く」ということも、この図式に従うと考えています。「○○を磨く」と言いますが、それは即ち「壁」を突破したことにつながり、結果的に「信念」が強くなるのです。このことを大切にしたいと思いません。